

# 秋穂八十八箇所霊場八十七番札所(正福寺)新築工事 現場見学&竹小舞 WS+土壁 WS の企画 活動報告

山口支部

昨年、山口県ヘリテージマネージャーの沼田氏が、秋穂地域の方々から「秋穂第87番札所」についての相談を受けました。

この建物は木造平屋建てで向拝+御堂で構成、大正期に建造されました。以来地域の人々が守ってきた大切な場所でしたが、かなり老朽化が進み白アリ被害も甚大でした。それでも「何とかこの場所を残したい」という幸田自治会からの相談を受け、ヘリテージマネージャーメンバーはそのための調査、プラン等を進め、一度解体して再建することを決定！ 地元住民からの寄付をいただいたものの厳しい予算の中、クラウドファンディング等を経て資金調達がおこなわれました。そして、建築確認申請を経て2024年1月より建て替え（新築工事）着工となりました。

主な協力メンバーは原田正彦さん、沼田登さん、金子敦子さん。なお施工は重黒木（じゅうくろぎ）家具建築工房が引き受けてくれました。



工事は、最近では少なくなった大工職人による手刻み加工と、金物使用を最小限にした工法で進められました。着工前に、ステップアップ講座で、この貴重な再建工事を見学出来ると聞き、「それなら山口支部女性部として各工程の工事現場見学会を企画してみよう」と思い、皆さんに声を掛けました。といっても、建て方は1月9日からで、見学が平日となるため各自行けるときにお邪魔してもらおう、という形をとりました。私も建て方2日目にお邪魔しました。ひとつ残念だったのは古材の再利用のこと。重黒木棟梁の話では、古材の状態が思っていたより悪く、ほとんど再利用出来なかったそうです。相談のタイミングが遅れたことが悔やまれますが、古材と新規材のコラボレーションはお見事です。日本の伝統文化である大工技術を目の当たりにさせていただきました。



その後、2月12日に小舞竹組み、2月23日には土塗り作業のワークショップを金子さんがセッティングしてくださり、有志達が駆けつけました。どちらも初めての体験！ 小舞竹組み作業には女性建築士4名で参加。指導をうけながら竹を組んでいきます。実はこれ、組みパターンが色々あるみたいで途中から頭がこんがらがってしまいました。



一方、土壁塗りの作業には、女性建築士3名、山口市教育委員会文化財保護課の北島さん、主責任者の沼田さん、幸田自治会の皆様も参加され、みんなでワイワイお手伝い！ プロの左官さんの鰻裁きを横目で見ながらの作業でした。

土を壁面に上手く載せるところが難しく、ポトッ！と落としてしまいます。腕は手板に載せた土の重みを支えていないといけないし、作業の大変さを実感しました。でも、ちょっと職人気分で面白く、黙々とやってしまいました。指導して下さった現場の左官職人さんに感謝です！ 棟梁は後始末が大変だったと思われま。

その後工事は、春の行事「秋穂八十八箇所お大師参り」に間に合わせるべく、着々と進められました・・・

山口支部 女性部長 上利裕子



本年1月 ニューヨーク・タイムズ紙「2024年に行くべき52カ所」に「山口市」が選ばれた このまちで当たり前暮らしている市民として、とても誇りに思う。また、山口支部は山口市景観整備機構指定に向け、市内小学校での景観学習を実施するため、水沼理事、山口県都市計画課と共に、青年・女性部有志と景観学習勉強会を随時開催している。今回のWSも振り返れば山口支部のみんながいた！ 私たちが住む地元の素敵な景観に是非気付いてほしいな…ここ秋穂二島幸田地区にも！おいでませ…「土壁の中に手跡を残すことができ、お堂との一体となった至福の時間でした」WSを終えた沼田氏の一言が印象に残った。この地域の気候風土に合った施工方法で再興し、100年目を迎えたこのお堂を、さらに100年地元の誇りの場として、次の世代につないでいこうという心意気に触れさせていただいた貴重な経験だった。

山口支部支部長 金子敦子